

畑地性カラー「福島1号」の育成

福島県農業総合センター 作物園芸部 品種開発科

部門名 花き—カラー—品種、育種・選抜

担当者 武藤景子、福田秀之、大河内栄、野田正浩、鈴木芳成、近内智子、本田祐希

I 新技術の解説

1 要旨

福島県は夏秋期におけるカラーの一大産地である。産地の維持・発展を図るため、球根の肥大率が高く、収量性が高い畑地性カラー「福島1号」を育成した。育成経過や主な特性については以下のとおりである。

- (1) 花色は白の地色に、仏炎苞の縁に桃色が入る。花形はラッパ型で仏炎苞の開きはやや小さい(表1、図1)。
- (2) 草型は直立で、葉の形は披針形。斑が線状に入る(図2)。
- (3) 奇形花率が低い(表1)。
- (4) 花茎長は50～60 cmであり、切り花長の確保が容易である。花立ち数は球根100g当たり2.1～3.7本と「ブラックアイドビューティ」に優る(表1)。
- (5) 球根は母球が大きくなりやすく、球根の再利用が可能である(表2)。
- (6) 既存品種「ブラックアイドビューティ」と比較して軟腐病発病度は低い傾向が見られる(表2)。
- (7) 畑地性カラー品種「レーマニーカーミネア」を子房親、「ホワイトゼム」を花粉親として交配して育成された品種である。

2 期待される効果

- (1) 軟腐病発病度は低い傾向が見られ、安定生産が期待できる。

3 適用範囲

- (1) 福島県全域

4 普及上の留意点

- (1) 球根の再利用を確保するため、球根消毒や土壌消毒等の軟腐病対策は必ず行う。

II 具体的データ等

表1 カラー「福島1号」の収量及び切り花特性(2016年 所内試験(郡山市))

系統名	花立ち数 (本/球根 100g)	平均 花茎長 (cm)	平均 切り花重 (g)	奇形花率 (%)	仏炎苞			平均茎径 (mm)
					高さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)	
福島1号	3.7	50.7	24.2	0.0	9.6	4.3	6.1	7.0
ブラックアイビューティ	2.1	57.9	48.0	4.2	10.7	4.6	5.9	10.4
クリスタルブラッシュ	4.4	29.1	13.9	20.9	9.4	4.5	5.8	5.8

表2 カラー「福島1号」の球根増殖特性(2017、2018年 現地試験)

試験場所	系統名	試験年度	球根肥大率 ¹⁾ (%)	球根増殖率 ²⁾ (%)	開花見込	
					球根数の割合 ³⁾ (%)	軟腐病発病度 ⁴⁾
猪苗代町	福島1号	2017年	178.9	130.0	65.4	40.0
		2018年	138.8	110.0	81.8	43.1
	ブラックアイビューティ	2017年	269.8	315.0	47.6	50.9
		2018年	116.6	100.0	75.0	46.4
南会津町	福島1号	2017年	171.8	255.0	37.3	40.0
		2018年	199.0	120.0	91.7	17.6
	ブラックアイビューティ	2017年	233.8	480.0	38.5	33.3
		2018年	193.6	160.0	61.3	33.3

1) 球根肥大率 = 掘上後の総球根重 / 定植前の総球根重 × 100 総球根重は水分量 60%での補正值

2) 球根増殖率 = 掘上後の総球根数 / 定植前の総球根数 × 100

3) 開花見込球根数の割合 = 翌年開花が見込まれる 30g 以上の掘上球根数 / 掘上後の球根数 × 100

4) 軟腐病発病度 = Σ (発病指数 × 株数) / 調査株数 × 5 × 100

発病指数 (0 : 無病徴、1 : 球根の一部に病徴有り、2 : 球根の 3 割程度に病徴有り、3 : 球根の半分程度に病徴有り、4 : 球根の 8 割程度に病徴有り、5 : 球根腐敗)



図1 カラー「福島1号」の仏炎苞(左：上部 右：側面)



図2 カラー「福島1号」の草姿

III その他

1 執筆者

本田祐希

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成 16 年度～平成 30 年度

(2) 研究課題名 競争力と個性のある花き品種の育成

3 主な参考文献・資料